

便秘症治療薬の用法に関して情報提供した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、便秘症治療薬の用法に関する医師からの相談に対して情報提供することで、治療効果の減弱を回避できたプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▶原疾患に対する治療目的で入院中の患者

【定期内服薬（一部抜粋）】
Rp. グーフィス錠 5mg 1 回 2 錠
1 日 1 回 夕食前



C さん

薬剤師さんに、C さんの薬で相談があります。
便秘症治療薬のグーフィス錠ですが、C さんが眠前の服用を希望されています。添付文書は食前になっていますが、眠前に変更することで問題はありますか。

グーフィス錠は血中に移行して効果がある薬ではなく、消化管で胆汁酸の再吸収を抑制することで効果を発現する薬です。
そのため、食事の刺激により胆汁酸が消化管に放出される前のタイミングで、グーフィス錠が投与されていることが望ましいと考えられており、食前投与に設定されています※。
眠前投与では、胆汁酸の分泌が十分でないことにより効果が減弱する可能性があります。

そうでしたか。それでは、朝食前・昼食前・夕食前で効果に違いはありますか。

それぞれの服用タイミングで比較したデータはありませんが、胆汁酸は食後であれば、朝・昼・夕に関わらず分泌されるため、同等の効果を示すと考えられます※。

ありがとうございます。それでは、C さんに相談してみます。

その後もグーフィス錠は夕食前で服用継続され、排便コントロールの悪化なく経過した。
便秘症治療薬の用法に関する医師からの相談に対して、薬理作用も踏まえて情報提供することで、治療効果の減弱を回避できた。

※参考文献：添付文書、持田製薬株式会社 HP（グーフィス錠 5mg 製品 Q&A）